

パブリックコメントの実施結果

「(仮称) 藤沢市市政運営の総合指針2024(素案)」について、パブリックコメント(市民意見公募)を行いました。実施結果については、次のとおりです。

1 実施期間

令和2年12月15日(火)から令和3年1月13日(水)まで

2 提出結果

- (1) 提出者数 11人
(2) 意見数 52件

3 提出された意見について

(1) 意見の内訳

区分	分類	件数	割合
はじめに	藤沢市の現状と見通し	3	5.8%
基本方針	策定の背景と意義	3	5.8%
	まちづくりコンセプト	6	11.5%
	基本目標2 文化・スポーツを盛んにする	3	5.8%
	基本目標3 自然を守り豊かな環境をつくる	5	9.6%
	基本目標4 子どもたちを守り育む	6	11.5%
	基本目標6 地域経済を循環させる	1	1.9%
	基本目標7 都市基盤を充実する	3	5.8%
	基本目標8 市民自治・地域づくりを進める	1	1.9%
重点方針	取組の考え方	3	5.8%
	まちづくりテーマ1 安全で安心な暮らしを築く	3	5.8%
	まちづくりテーマ2 健康で豊かな長寿社会をつくる	1	1.9%
	まちづくりテーマ3 笑顔と元気あふれる子どもたちを育てる	1	1.9%
	まちづくりテーマ4 都市の機能と活力を高める	2	3.8%
	まちづくりテーマ5 未来を見据えてみんなではじめる	5	9.6%
	評価	1	1.9%
その他	その他	5	9.6%
合計		52	100.0%

※端数処理の都合上、構成比の合計が100%にならない場合があります。

(2) 意見の内容

No.	意見の概要
藤沢市の現状と見通し	
1	人口構成の変化や税収の減少などが懸念されるので右肩上がりの発展は見直すべき。特にコロナ禍の収束見通しが立たないことから、大型開発やまちづくり事業を一度中止し、高齢者、子どもたち、生活困窮者等に手厚い補助や支援をすべき。
2	福祉予算の増額が重荷になっていると強調すべきではない。市の姿勢が生活保護や福祉制度を利用する人への重荷になり、利用控えになっている。 公共施設の整備や大型事業に多額の費用がかかっていることを市民に周知、説明し、もっと節約すべき。市民の声を聴くべき。
3	6つの都市拠点の一つに（仮称）村岡新駅周辺が計画されているが、コロナ対策関連予算がかさむ中、村岡新駅周辺の開発はストップすべき。
策定の背景と意義	
4	市民と協働で市政運営に取り組むのであれば、公共計画（基本構想・基本計画・実施計画の三層構造）での策定が望まれるが、三層構造の計画策定は大変な労力と時間を要するため、基本構想は市政運営に大きく影響する外部環境の変化がなければ前計画を踏襲し、基本計画は4年ごとの市長選時に市政運営方針を反映させた見直しを行い、実施計画は重点施策レベルでの施策の見直しをする計画策定とすべき。
5	総合指針は市長任期に合わせた4年ごとの策定となっているが、例えば都市計画やインフラ整備など、中長期的な取組については、市長の交代ごとに計画が変更となる可能性も懸念され、行政と市民が同じ目標に向けたまちづくりにならない。
6	総合指針は条例で規定されていないため、議会のチェックを受ける仕組みが確立されていない。財政計画との関連においても、政策が費用対効果の視点で合理的なものか否か、第三者視点でのチェックがされないまま市長決裁で実施されてしまうのではないか。

No.	意見の概要
まちづくりコンセプト	
7	SDGsの視点はとても良いと思うが、大胆な見直しの中に「今あるものを、手入れをしながら長く大切に使う」という視点も入れるべき。
8	デジタル化は必要だが、こればかりに力を入れ過ぎると怖さを感じる。あまりに最先端過ぎると住みにくい気がする。
9	デジタル市役所・スマートシティの推進では、防犯カメラを増やすべきではない。
10	スーパーシティ構想は個人のプライバシーが侵害される恐れがある。市は検討を進めるとのことだったが、まずは市民に周知をすべき。
11	まちづくりコンセプト3に市民サービスのあり方を見直すとあるが、行政の窓口業務は市民の声を直接聞き、行政サービスにつなげる大切な業務なので、窓口業務の民間委託や市の職員の削減はやめるべき。
12	災害や電気の供給ストップで使えなくなるデジタル化ではなく、正規の専門の職員を増やすべき。
基本目標2 文化・スポーツを盛んにする	
13	図書館サービスについては、誰でも利用できるような開館時間帯にし、蔵書を充実させ、手書きカードで管理する市民図書室を総合図書館と同様の管理システムにすべき。小学校の図書室も魅力あるものにすべき。
14	図書館の充実に賛成である。予算や数を減らさないでほしい。特に無形文化財の継承やスポーツはお金や時間の余裕が無ければできない。
15	図書館が文化振興に役立っている。4市民図書館1市民図書室の堅持と予算の増額をすべき。 また、鶴沼公民館等の郷土資料の保全充実も郷土愛醸成のために必要である。
基本目標3 自然を守り豊かな環境をつくる	
16	藤沢駅周辺、辻堂駅周辺は緑が少ないので、街中の緑化を進めるべき。ゴミはもっとリデュースに力を入れるべき。 農地の保全、活用には賛成である。農地の休耕地ゼロを進めるのも環境にとって重要である。

No.	意見の概要
基本目標3 自然を守り豊かな環境をつくる	
17	自然を壊す不要不急の土地区画整理や駅開発はやめるべき。
18	マイクロプラスチックを海に流出させないために、海が近い藤沢だからこそ、人工芝を使用禁止にすべき。 太陽光や川の小水力発電等により、市で電気供給できるようにすべき。
19	国は風力発電に力を入れるようだが、採算が採れずに撤退した事例もあるので、本市では慎重な対応をすべき。 また、HHO ガスと燃料電池を組み合わせた災害時用電源の備蓄など、安全に暮らしていく未来のために実用化の始まった革新的エネルギーを視野に入れた政策を進めるべき。
20	気候危機の文言が入ったことは評価できるが、ゼロカーボンシティ実現のための具体的施策、中期的・長期的な目標・計画について明確に記述すべき。
基本目標4 子どもたちを守り育む	
21	子どもの貧困が問題になっている。生活保護の要保護対象や準要保護のランクを下げて対象者を減らすことはやめるべき。 義務教育は無償だが、保護者負担が重い。子どもたちの未来を切り開くための支援を充実すべき。
22	支援が必要な子どもたちへの関連予算は削減すべきではない。（特別支援教育就学奨励制度、幼児教育振興助成費、法人立保育所運営費等助成事業、特別支援保育等関係費等）
23	公立保育園は、地域の子育て支援や一時預かりや園庭開放を行い、病児保育の検討も行っており、果たす役割は大きいので廃止方針を撤回し、保育士の待遇改善、園でのコロナ対策の充実に取り組むべき。 また、学童保育で庭がないところがあるので、庭を必要条件とすべき。
24	ICTを活用した学習を進めるとのことだが、学校の職員の要望を聞くべき。 また、電磁波から子どもの健康を守るべき。
25	学校が格差の再生産の場にならないためにも、クラスの少人数制や複数担任制を導入すべき。 また、子どもと教師と親と地域に問題が共有される学校運営をすべき。

No.	意見の概要
基本目標 4 子どもたちを守り育む	
26	<p>学校では教員が不足している。教室が密な状況になっているので、コロナ対策の観点からも教員を増やし、分散学習をすべき。</p> <p>また、特別支援学級は県の教員加配も減っているため、市の介助員頼みになっている。もっと現場の教員の声を聴くべき。</p>
基本目標 6 地域経済を循環させる	
27	<p>新型コロナウイルス感染症による影響を受けている中小のお店の支援を行うことで、藤沢が住みやすいまちになるのではないかと。</p>
基本目標 7 都市基盤を充実する	
28	<p>都市基盤施設の再編集約をするなら、村岡新駅建設には反対である。市がどのようなまちづくりをしたいのか方針がわからない。緑の保全と言いながら、住宅地の緑が宅地化されている。さらなる開発ではなく、本気で緑を保全すべき。</p>
29	<p>高齢者や子育て中の方は、近いところに公共施設があったほうが利用しやすいため、施設の再編、集約化ではなく既存のものを改修して使用するなどの工夫をすべき。</p>
30	<p>市内の公園にはトイレがなく、子どもたちが困っているためトイレを設置すべき。</p>
基本目標 8 市民自治・地域づくりを進める	
31	<p>子どもたちだけでなく、学ぶ機会がなかった大人にも人権教育は大切である。性教育や憲法を知ることは人権教育や主権者教育につながると思う。</p>
取組の考え方	
32	<p>新総合計画 2020 の終了に伴い、市民・市民団体などの協力を得て推進してきた施策が止まってしまったが、協力者への説明やフォローが不十分であった。このような経過もあり、総合指針でマルチパートナーシップの推進を掲げても協力を得にくいので、どのような推進の仕方にすればよいのか課題解決が必要。</p>

No.	意見の概要
取組の考え方	
33	環境対策の推進にも庁内部局の横断的連携を強く打ち出してほしい。計画建築部の「ふじさわサイクルプラン」（CO2削減）や「空き家対策」（資源の利用）なども、気候危機への緩和策につながる政策だと思う。また、環境部の「エネルギーの地産地消」事業が適応策である災害対策にも含まれると思う。
34	横断的連携による市政運営方針は重要であるが、複数の部局が関係する取組を行うにあたり、目的を達成するための推進管理などのルール作りを明確化する必要がある。現状ではそれが無いために関係部局の取組がバラバラで成果が出ていない。
まちづくりテーマ1 安全で安心な暮らしを築く	
35	交通安全対策では大通りの整備だけではなく、もっと歩行者目線で細い道など生活道路の整備・安全対策をすべき。
36	感染症対策の強化では、高齢者施設、障がい者施設、医療従事者、保育園・幼稚園・学校の職員を対象に定期的にPCR検査を行うべき。 介護者が感染した場合の要介護者への生活支援も行うべき。このように市の職員は対応すべきことがたくさんあるので、市の職員を減らすべきではない。
37	新型コロナウイルス感染症に関する情報提供の徹底をすべき。発熱した場合の検査はどこに相談するのかさえ分からない。
まちづくりテーマ2 健康で豊かな長寿社会をつくる	
38	全ての年代で支援が必要なことがあると思うので、必要な支援がスムーズに行き届くよう、地域包括支援センター、福祉部署の役目をより充実させ、予算を増やすべき。 また、地域産業と協力し、支援を迅速にするためのデジタル化やスマートシティ推進に取り組み、具体的な事業が発生するところに、地域の就労希望者を募って活性化を図るべき。
まちづくりテーマ3 笑顔と元気あふれる子どもたちを育てる	
39	藤沢市は子どもが増えているが、プレハブ校舎ゼロ、非正規雇用の先生もゼロにし、オンライン学習の整備もすべき。

No.	意見の概要
まちづくりテーマ4 都市の機能と活力を高める	
40	村岡地区に都市拠点を整備することが藤沢の都市機能を高める事になるとは思えない。コロナ対策や補償，藤沢駅周辺の整備に予算をかけるべき。 経済対策は，食の基本の「農業」にも力を入れて欲しい。
41	右肩下がりの財政の中，村岡新駅周辺の開発は矛盾しているので，全市民からのアンケート調査により賛否を問い，その結果を尊重してもらいたい。
まちづくりテーマ5 未来を見据えてみんなではじめる	
42	デジタル市役所・スマートシティの推進については，IT推進課が中核となると思われるが，自力での施策推進は難しいと捉えている。有識者や大学の協力を得ながら推進するものとなるが，どのような推進の仕方で行き止まりの心配がないか検討が必要である。
43	郷土愛の基本理念を考えると，市民参加型・活躍型の意見交流は不可欠である。デジタル化やスマートシティの推進は市民のためになることのみを念頭に，企業優先にならないようにすべき。
44	個人情報の漏洩や無断利用の危険があるため，行政効率化のためのマイナンバーカード普及に反対する。国の進めるマイナンバーカードの活用は地方自治体を無くすことにつながる危険がある。
45	マイナンバーカードの普及促進を図るということだが，情報の漏洩や紛失の危険があるので，やめるべき。
46	人材育成の推進については，現状の職員の実態を把握した上で，人材育成課題を明確化して取り組んでももらいたい。現状，部門担当職員の職務遂行に関わる能力不足により市民の権利侵害や権利剥奪が起きているので，どのような育成の仕方をすれば市民満足度が得られる職務遂行ができるのか検討すべき。
評価	
47	重点施策の評価方法である「市民意識調査」の実施手法等について詳細に記載すべき。
その他	
48	新たな総合指針の作成・実行に大きな期待をしているが，資料全体がやや重複し長文なので理解しやすい構成にすべき。

No.	意見の概要
その他	
49	素案はもっとわかりやすく簡潔にすべき。同じことが何回も出てきて分かりづらい。
50	基本方針から重点方針への展開については整合性がなく，表現が抽象的（文学的）で分かりづらいため経営理念としては不適切である。
51	総合指針は，カタカナやアルファベットが多い。誰一人取り残さないまちにという姿勢を誰にもわかりやすい言葉で説明すべき。
52	以前，市と地域住民で市政への要望を語り合う会があった。オンラインで市長，議員，市職員との意見交換会を行ってほしい。

以 上